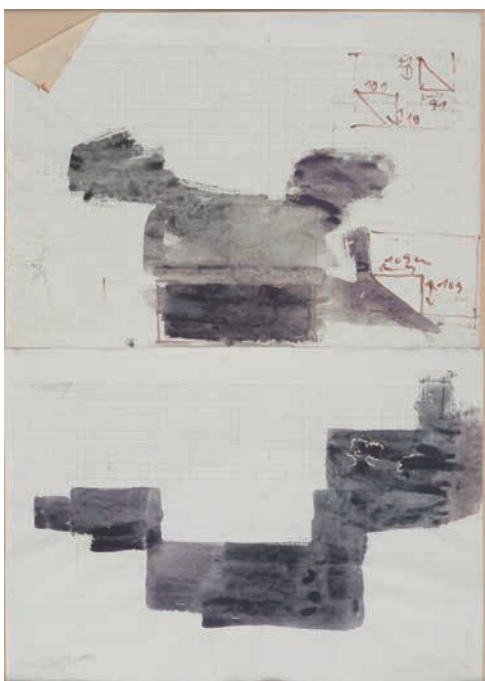


“Live with the Times, and beyond Them.”

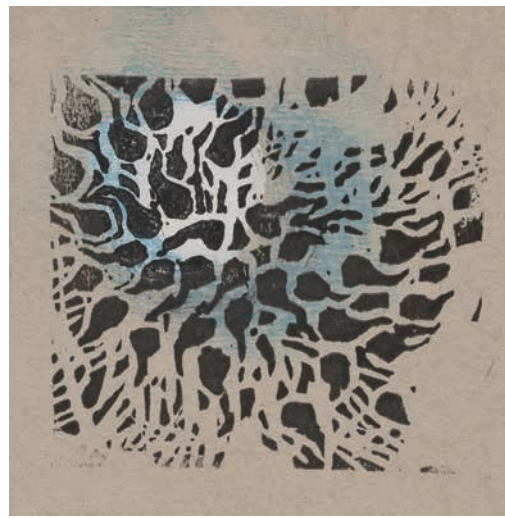
「時代に生きよ、時代を超えよ」



アナ・メンディエタ《無題》1982 年



ブリンキー・バレルモ《無題》1969 年



藤牧義夫《彼等の集り》



谷中安規《螺を吐く男》

2025 年 6 月 9 日(月)-8 月 8 日(金)

前期 | -7 月 5 日(土) / 後期 | 7 月 9 日(水) -
11:00-18:00 | 土日・祝日休館 | 入場無料

7 月 5 日(土)・7 月 26 日(土) は開館
7 月 7 日(月)・7 月 28 日(月) は閉館

慶應義塾大学アート・センター
(三田キャンパス南別館 1F アート・スペース)

講演会のお知らせ

開催日 | 2025 年 7 月 5 日(土)
登壇者 | 大谷 芳久 (元かんらん舎)

*予定は予告なく変更されることがあります。詳細は HP をご確認ください。



展覧会 HP

The Gaze of Reiji Kawaguchi

これまで公開されることのなかった、藤牧義夫等を中心とする戦前の日本作品と海外の現代美術の優品を有する個人コレクションの展覧会をお届けいたします。

人は作品をどれほど深く見つめることができるのでしょうか。希代のコレクター川口黎爾は「まなざし」を「直視」と書きました。彼の作品を見つめる「まなざし」は作品に對峙し、深くその中に入り込んで行くようであったと言います。そのコレクションは正に「直視」を通して集められた作品の数々でした。その直視の先に佇んでいた藤牧義夫は「時代に生きよ、時代を超えよ」と言いました。時代に生き、時代を超える作品に川口は感応し、彼の「直視」に耐えた作品だけが選抜かれていったのです。作品との対話に生きた川口が残したコレクションは、今、我々に何を語ってくれるのか。ぜひ、会場で確かめてください。

展覧会は藤牧義夫、谷中安規など戦前の日本作品を展示する前期（6/9-7/5）と、B. バレルモ、A. メンディエタなど海外の現代美術作品を展示する後期（7/9-8/8）の2部構成で開催します。

川口黎爾の直視
まなざし